

令和2年度 自己評価結果

平安幼稚園

1. 教育・保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約（①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利）を遵守し、人格主義の基本理念（誠実・忍耐・勤勉）と良心を育てる。

2. 教育方針

本園の教育は園児の言語（英語を含む）、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

3. 教育目標

- ①読み書きができる賢い子ども
- ②情緒が豊かで明るい子ども
- ③よく考え、進んで行動する子ども
- ④仲良く遊び、協力し合う子ども
- ⑤身体が丈夫で逞しい子ども

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ①基本的生活習慣の確立
- ②主体的な遊びの充実

5. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	備考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた幼稚園の運営状況	A	
(2) 幼稚園の状況を踏まえた教育目標等の設定状況	B	
(3) 幼稚園の教育課程の編成・実施の考えについての教職員間の共通理解の状況	B	
(4) 学校行事の管理・実施体制の状況	A	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	B	
(6) 遊具・用具の活用	B	
(7) ティーム保育などにおける教員間の協力的な指導の状況	A	
(8) 幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況	A	
(9) 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況 ・環境を通して行う幼稚園教育の実施の状況 ・幼児との信頼関係の構築の状況 ・幼児の主体的な活動の尊重 ・遊びを通しての総合的な指導の状況 ・一人一人の発達の特性に応じた指導の	B A B B A	

(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断の実施の状況	A	
(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A	
(12) 法定の学校安全計画や学校防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	B	
(14) 安全点検や、教職員の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	B	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	B	
(17) 園長など管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、 また、多くの教職員からの信頼の状況	A	
(18) 校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、幼稚園の明確な運営・責任体制 の整備の状況	A	
(19) 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、 また、教職員への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 学校保健法、労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	B	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	B	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	C	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	B	
(25) 指導が不適切である教員の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 教育目標の設定と自己評価の実施状況 ・ 幼児や幼稚園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた幼稚園としての目標等の設定の状況 ・ 目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況 ・ 自己評価が年に1回以上定期的に実施されているかなどの実施状況 ・ 自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・ 全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況 ・ 自己評価の結果の設置者への報告と状況	A A A B B A	
(27) 幼稚園に対する保護者の意見・要望等の状況 ・ 保護者の満足度の把握の状況 ・ 教育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況	A A	

(28) 幼稚園に関する様々な情報の提供状況	A	
(29) 幼稚園公開の実施の状況	B	
(30) 幼児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 学校評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	B	
(34) 保護者の実情や要望による幼稚園の子育て支援活動の実施状況	B	
(35) 園や教職員による受け入れ体制の状況	A	
(36) 幼稚園の目的、教育課程との関連、幼児の負担、家庭との連携等への配慮	B	
(37) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・設置者と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況 ・設置者と連携した幼稚園教育の情報化の状況	A	
(38) 遊具・用具・図書等 ・設置者と連携した遊具・用具・図書等の整備状況	A	

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結果	理由
B	<p>1 基本的な生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行により、年度初めから通常保育が行えず、全園児揃っての保育初めが大幅に遅れてしまった。そのため、保育計画に大きなズレが出てしまったが、一年を通して基本的な生活習慣が確立できるよう、その都度状況に合わせた指導を行った。頻回な登園自粛により、子ども達の成長が一進一退することもあったが、年度末になると2歳児や3歳児の子ども達は自ら排泄や着脱することができ、4歳児5歳児のお友達は相手を思いやる気持ちも芽生え、園児一人ひとりの成長を感じることが出来た。 <p>1 主体的な遊びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の興味のあることを探り、自ら挑戦したり、発見したり、好きなものに手を伸ばしていけるように保育内容を計画していたが、感染予防対策を考慮すると思うように進められないこともあった。 ・コロナ禍でも園児が好きな遊びを選び、遊び込むことのできるような保育内容を工夫し、状況を踏まえながら臨機応変に保育していく必要がある。

7. 総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染症の流行により、通常保育や例年通りの行事の実施が出来ず、前半は手探り状態だった。園児、保護者、職員の健康と安全を最優先し日々の保育に努め、社会の状況、園の状況を踏まえた上で安心できる取り組みを行っていった。今年度は試行錯誤した一年だったが、新たな発見も多く、日々の保育や行事のあり方を見直す良い機会となった。コロナ禍と言われる今、園児や保護者にとって何が必要で、何を大切にすべきか考えながら、今後も安全安心な保育が提供できるよう職員一丸となって努めていきたい。

8. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
健康面に配慮しながら、安心安全な保育を行なう。	<ul style="list-style-type: none">・感染症対策の徹底（手洗い・消毒・換気）・園と家庭との連携を大切にし、安心してお子様を預けられるように努める。・状況に応じて日々の保育や行事を計画し、園に関わる皆様の良い思い出作りになるようにする。
園児一人ひとりの個性を活かした保育を行なう。	<ul style="list-style-type: none">・子ども達一人ひとりを認め、理解して関わる。・一人ひとりの特性を踏まえ、健やかな育ちを支えられるように職員が一丸をなして保育に努める。

◎「4. 5」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である